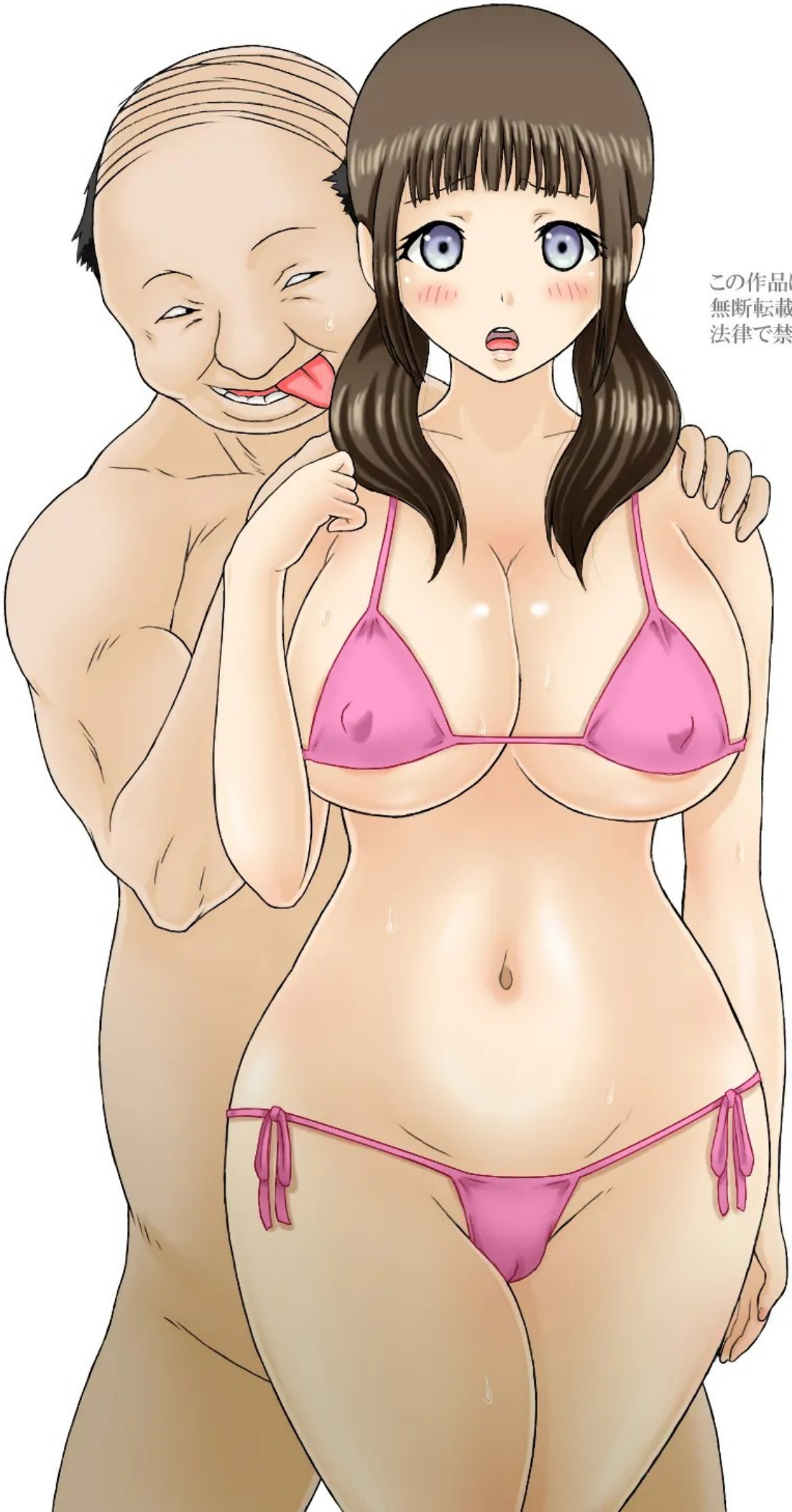
どすけべ
催眠治療。
「…は、、はい……実は私……男の人が…苦手で
……普通に……話せないんです……
それを、治したいと思って……」
DOJIN
R-18
for adults only
Presented by 慶人

どすけべ催眠治療。

DOJIN
R-18
for adult only

Presented by 慶人 Keito



この作品はフィクションです。
無断転載・転売等は
法律で禁止されています。

ある日の午後、花野結衣（はなのゆい）は、心療内科『阿吽クリニック』の診察室にいた。

「私が、医院長の阿吽吾郎（あうんごろう）です。……えぇと、花野結衣さん…今日は、どうされましたか…？」

「…は、はい……実は私……男の人が…苦手で……普通に……話せないんです……それを、治したいと思って……」

「なるほど……私と話すのは大丈夫ですか…？」

「は…はい…先生とは、何とか…話せるのですが……同級生とか、同世代の異性とは…難しい…です……で、でも……か……彼氏とか…いつか欲しいなと……思ってて……あの……」

「なるほど、わかりました……それでは早速、治療していきましょう。男の人が平気になるようにね……」

「…さぁ、これを見て下さい」
吾郎は、紐に吊るした5円玉を結衣の目の前に見せた。
「今からこれを揺らすので、目で追ってくださいね…」
（…えっ、こんなので治療するの…？）
結衣は、子供だましの様な方法に、強い疑念を抱く。
「…大丈夫ですよ、花野さんはいつの間にか男が平気になりますから…私に任せて……ククク…」

プラーン……プラーン……プラーン……

吾郎は、硬貨を揺らし始める……。

「……さぁ…貴女は、男が平気になります……落ち着いて…リラックス……もう、男に何をされても平気ですからね……」

結衣は、5円硬貨を目で追った。

（…こ、こんなので…一体何が変わるのかな……別に何も変わらない……変わら……）

「さぁさぁ……花野さんは、男が平気ですからね……男に何をされても平気なんですよ……さぁ……」

結衣の目が、トロンとしてきた……。

プラーン…プラーン…プラーン……

5円硬貨は、吾郎の手で揺れ続ける……。

「さぁ……花野さんは、男が平気ですよ……男に何をされても平気ですよ……」

（……もうそろそろ、効いてきたかな…）

「……わ…私は…男が平気……何をされても平気……」

結衣の意識はなく、いつの間にか催眠効果が現れ、吾郎の言う通りになっていた…。

「……フフフ、花野結衣ちゃん……君は催眠が効きやすいねぇ…いや、結構結構……それでは、本当に男が平気になったか試してみようかね……ククク……」

吾郎は立ち上がり、結衣に近づいた……。

「はぁ……さっきから、このデカい乳が気になってしょうがなかったんだ……」
そう言うと吾郎は、とてもJKの物とは思えない大きさの結衣の乳房を、触り始めた…。
フニッ…モミッ…モミモミッ……
「うへへ……結衣ちゃん……おっぱい大きいね……」
「……うん、私…胸大きいよ……あんッ……」
結衣は、吾郎に対して自然に受け答えする…。
（ぐひひ……こんな上玉の爆乳JK、何もせずに帰すかよ……もう俺の女にしてやるからな……あぁ、カワイイなぁ…）
実は吾郎は変態医師で、以前から気に入った女性患者に対して、こうして催眠治療を利用し性的な欲望を満たしていたのだった……。

「さぁ、結衣ちゃん……俺とチュウしよう……チュー……ネチョ…レロレロッ……」
吾郎は結衣に唇を重ねると、舌を入れこみ結衣の口内を舐める……。
ピチャピチャピチャ……レロレロレロ…チャピッ……
「あっ…んっ……フゴッ…あぁッ……ピチャピチャ……」
（フフッ……現役JKとのディープキス、ゲットだぜー……あぁ、美味しい……）
吾郎がキスする間、二人の唾液が混ざり合い、結衣の口から涎が垂れるのだった。

「んはぁ…はぁっ…はぁ……結衣ちゃんの唇、美味しい……結衣ちゃんはキスした事ある…？」
「…んーん……初めて……」
「ぐへへぇ……結衣ちゃんのファーストキス、もらっちゃった……じゃあ、服脱ごうか……脱がせてあげるね……」
「うん……服脱がせて……」
吾郎は、結衣の制服を脱がし始めた。

スリッ…シュルシュルシュル……スリリッ……
吾郎が制服を脱がすと、結衣は下着姿になった…。
「おぉ……結衣ちゃん、エッチな下着を着けてるね……良いよ…ぐへへ…」
「…うん……でも…私、ムネ大きいから、カワイイ下着は全然ないの……」
（なるほど……大きいサイズは、カワイイのが無いのか…胸が大きいのも悩ましいんだな……）
「だけど、結衣ちゃんはカワイイから、問題ないよ……フフッ…」
と言いながら、吾郎は結衣の爆乳を揉み続ける……。

「さぁ、結衣ちゃん……ブラジャー外そうね……ハァ…ハァ……」
「うん……ブラ、外してぇ……」
パチン……スルスルスル…シュルルッ……
結衣からブラジャーが外され、その見事な爆乳が露わになった…。
「おおっ……結衣ちゃん、デカい……バスト何センチ…？」
「この前の身体検査で測ったら…103センチだった……」
「…ひゃくさんッ…？……それは凄い…じゃあ、いっぱい揉んでおこうね……」
モミッ…モミモミッ……モミモミモミッ……

「はぁ……結衣ちゃんのおっぱい、舐めるね……レロッ…チロチロッ…チュパッ…チュッ……」
チュッ…ジュルッ…ジュプッ…ズッ…ププッ…ニチュッ…チュプッ……
吾郎は、結衣の乳首を舐めると、力強く吸い始めた……。
「…あっ……あぁッ…んっ…アハッ…あはンッ……」
結衣は催眠状態の中、喘ぎ声をあげる…。
（こりゃ、見事な乳首だ……乳房に比例してデカい……吸い応えあるわ……ンフフッ……）
ジュッ…プッ…ジュルルッ…ニュププッ…ズッ……
吾郎は、結衣の胸を堪能するのだった…。

「さぁ、結衣ちゃん……ベッドの上に座って……」
結衣は吾郎にパンツを脱がされると、ベッドの上に座った。
「あっ……は、恥ずかしい……」
催眠状態でも、流石に全裸になると恥ずかしいらしい……。
「いやぁ、結衣ちゃん…恥ずかしくないよ……結衣ちゃん、綺麗だよ……食べたくなるくらい……」
（ふひょー……たまんねぇ……早くチンポ、突っ込みてぇ……）
吾郎は、結衣の裸体を舐め回す様に観察した…。

「ぷひひっ……結衣ちゃんのワレメ、よく見せて……んー、可愛い……ヒヒッ…」
「あぁ……はぁッ…はぁッ……先生、あまり…見ないでぇ……ハァ……」
結衣は、引き続き恥ずかしがる…。
「フヒヒッ……大丈夫、もう男が平気なんだから……これからマンコ舐めてあげるからね……」
「はぁア……ハァ…ハァ…ハァ……」
（あぁ……結衣ちゃんのマンコ…いただきます……）

「んちゅーっ……ぺろぺろぺろぺろッ……」
「はぁんっ……あっ…はっ…ハァッ……！」
ピチャピチャピチャ……レロレロレロッ……
（あぁっ……JKのマンコ、美味ぇっ……結衣ちゃん…ペロペロッ……）
「あはっ…んんっ…んはッ…あっ…あぁッ…アンッ……」
吾郎の愛撫により、結衣の女性器から愛液が滲み出てくる。

「あはっ……先生っ…そんな…ペロペロしないで……イッちゃうっ……」
ペロペロペロペロッ……ジュルルルッ……ピチャピチャピチャピチャ……！
「あふぁ……マンコ汁、ウマーっ…ピチャピチャ……
結衣ちゃん……良いよ……ペロペロッ……」
（これは美味い処女マンコ……これからゆっくり
味わってやるからな……ブヒヒヒヒッ……）
「アッ…ンッ……アハッ…イヤッ…アァッ……ンハッ……」
結衣は、意識のないまま喘ぎ続ける……。

「シーッ…アァッ…アンッ……イク…イクッ…イッ……あぁアッ…！」
ビシュッ…ブシュッ…ジョボボボボ……！
結衣が声にならない声をあげると同時に、膣から潮が吹き出た。
「ンハハハッ……結衣ちゃんのマンコっ……潮が吹き出た…
ンゴクッ…ゴクゴクゴク……ぷはぁ、こりゃたまらん……」
（結衣ちゃんのJK処女マンコジュース……めちゃ美味いわいッ……）
顔にかけられながら、吾郎は結衣の潮を悦んで飲むのだった……。

「さぁ、結衣ちゃん……今度は俺のペニスをしゃぶろうねぇ…ククク…」
吾郎は、結衣の顔のすぐ傍に勃起したペニスを近づける…。
（…結衣ちゃんの身体に触れ続けて、もう勃起が治まらん……）
「はぁ…はぁ…はぁ……あぁ……」
結衣は、すぐ横にあるペニスを感じとったが、何も反応しなかった…。

「結衣ちゃん…チンポを口に入れるから、噛んじゃだめだよ……ほぉら……」
ムチュッ…ズブブブッ……ヌプッ……
吾郎の巨大なペニスが、結衣の口いっぱいに広がる……。
「…ムグッ…ふむぅ……ンッ……ゴクッ……んぐっ……」
結衣は一方的に入れられるペニスに、苦しそうである…。

「はぁあ……結衣ちゃんの口マンコ…気持ちイイ……このまま動かすから唇で咥えててね……」
「…う、うん……フゴッ…ンチュッ…チュブッ…チュブッ……」
吾郎は、結衣の口の中のペニスを動かし始める…。
（こ…これは気持ちイイ……ゆ、結衣ちゃん……も、もう出したくなってきた……）
チュプッ…チュブッ…チュッ…チュブブッ……
快楽と興奮により、吾郎のペニスの動きが早くなった…。

「あぁッ……結衣ちゃん…もうイクっ…イクねッ…結衣ちゃ……アァッ…！」
ブシュッ…ドピュッ…ブピッ…ブシュシュゥッ……！
「ウグッ…ブゥッ…んっ…ングッ…ゴホッ…ンガッ……！」
「はぁッ…はぁ…ハハッ…結衣ちゃんの口に、思わず出してしまったよ……ハハハッ…」
（あぁ……気持ち良かった……まさか、結衣ちゃんの口マンコが、こんなに俺のペニスにジャストフィットするなんて……はぁ…良かった…）
吾郎はあまりの気持ち良さに、結衣の口腔内に射精した。だが、いきなり射精されたので結衣は、その精液をほとんど吐き出してしまったのだった……。

「……さん……花野さんっ……聞いてますか…？今日の治療は終わりですよ……花野さん……」
「…えっ……あっ…先生…？……も、もう終わりですか……あれっ…？」
結衣が気付くと、治療は終わっていた……だが、5円玉を見ていた以降の記憶が定かではなかった…。
「…はい、今日はもう終わりです……また明日来て下さい……」
「あ……はい…ありがとうございました……」
（…ふぅ…服を着せるのが大変だったが…今日はこの辺で良いだろう……続きは、また明日の楽しみだ…ククク……）
結衣が帰って行く後ろで、吾郎は今日のプレイを思い出し、ほくそ笑んでいた……。

次の日も、結衣は阿吽クリニックに来た。この日は、吾郎に水着に着替える様に言われ今、更衣室で渡された水着に着替えている所だった。

「…水着ってどんなのだろ……？」

渡された水着は、紙袋に入っていてまだ様子が分からない…。

（…まぁ、良いか……治療の為だもんね……）

結衣は、何の疑いも無く着替え始めた。

スルッ…シュルシュルシュル……スリリッ……

結衣は更衣室で一人、裸になる……。

（…最近、少し太ったかな……お菓子ばっかり食べてるからなぁ……でも、美味しいのよね……）

自分の身体に付いている肉が、気になる様だ。

「……花野さん、準備はできましたかな…？」

隣の診察室から、吾郎の声が聞こえる…。

「…あっ…はいっ……今、着替えてる途中で……もう少し待って下さいっ……」

結衣は、慌てて水着を着ようとする。

結衣は、身に着けた水着を見て、愕然とした。

（な…何、この水着……ほとんど裸じゃない……こんなの着て、男の人の前に出られない……）

「……花野さん、そろそろ良いですかな…？」

吾郎の、催促の声が聞こえる。

「あっ…は、はい……今行きます……」

（こ、これも……治療の内だから……）

結衣は、意を決して診察室に向かった…。

「……お待たせ…しました…」
結衣は、吾郎の前の椅子に座った。
「ほうほう……花野さん、良く似合ってますな…大きい胸も強調されて良いですぞ……ククク…」
「…はい、ありがとうございます……」
（あれ……先生に見られても、全然気にならない……）
「どうですか……治療が効いてるんじゃないですかな……？」
「…は、はいっ……先生と普通に話ができるし、水着姿見られても全然平気……」

「それは良かった…じゃあ今日は、もっと男と仲良くなれる様にするから……昨日と同じように、これを見てね…」
「はい、宜しくお願いしますっ……」
（…私、男の人と普通にお話してる……）
（くくく……今日は、結衣ちゃんの全部をいただくか……）
「今から揺らすから、よく見ててね……」
吾郎は、昨日と同じように5円硬貨を揺らし始めた…。

プラーン……プラーン……プラーン……
「さぁ、花野さん……花野さんは、もう男が平気ですよ……男に何をされても平気ですよぉ……」
（わ、私は……男の人が平気……男が平気……）
「そうそう…リラックスしてね……花野さんは男が平気ですよ……むしろ、男が好きですよぉ……」
（私は…男が平気……男が好き……男が……）
「花野さんは、男がとても好きですよ……花野さんは、阿吽吾郎がとても好きですよぉ……」

《私は、男が好き……先生が好き……》
プラーン…プラーン…プラーン……
吾郎の硬貨は揺れ続ける……。
「…私は、吾郎の女ですよ……吾郎の肉便器ですよぉ……」
「……私は、先生の女……先生の肉便器……」
「…フフフッ、そろそろ良いかな……さぁ、結衣ちゃん……またベッドに行こうね…フフッ……」
吾郎は、催眠にかかった結衣を、診察ベッドに連れて行った…。

吾郎は、裸になってベッドの端に座り、結衣の爆乳でパイズリをさせる…。

「そうそう…上手いねぇ、結衣ちゃん……そのまま、おっぱいでチンポを擦って……」

「…うん……オチンポ、大きい……はぁ…は……」

グニニッ…ヌルッ……ヌッ…ヌッ…ヌルッ……

（おぉッ……結衣ちゃんの爆乳…温けぇ……気持ち良い……可愛いなぁ……）

吾郎は、一生懸命パイズリをする結衣から、目が離せなかった…。

「そのまま、チンポの先を舐めて……結衣ちゃん…はぁ…ハァ……」
「うん、分かった……ペロペロペロ…レロレロッ……」
吾郎の言う通り、結衣は亀頭の先を舐める……。
「うぉッ…刺激が強くなって…キモチい……アァッ…ハァッ…はぁ…」
「はぁ…ハァ……先生のオチンポ……舐める……ペロペロペロッ……」
（な…なんて可愛い肉便器なんだ……結衣ちゃん…もう、メチャクチャにしたい……）

「結衣ちゃん、もう水着脱ごうねぇ……俺が脱がせてあげるから、そのままパイズリしててね…グヘヘヘッ……」

「あ……うん…ペロペロペロ…レロレロレロッ……」

ススッ……スルスルスルッ…シュルッ……

吾郎は、結衣の水着を取り去り、結衣は裸になった…。

「あぁ……結衣ちゃん、可愛い……いっぱい可愛がってあげるねぇ……ブヒヒッ…」

そう言って吾郎は、パイズリする全裸の結衣の身体を触りまくるのだった…。

「あっ…ゆ、結衣ちゃん……出る……出すよッ…顔に……アァッ…！」

ドピュッ…ドビュッ…ビュクッ……ドピッ…ピュルッ…ピッ……！

「あっ…アァッ…アッ……ん…あはっ……」

吾郎にいきなり射精され、結衣は無意識ながら戸惑っている…。

「はぁ…はぁ…はっ……結衣ちゃんのパイズリ…最高……気持ち良い……毎日やってもらおう……はぁ……」

吾郎は結衣のパイズリでイかされ、悦に入っていた…。

「さぁ、結衣ちゃん……ベッドの端に四つん這いになって、お尻をよく見せて……」
「はーい……先生、私のお尻…よく見てぇ…エヘヘ……」
結衣は四つん這いになって、吾郎に向かってお尻を向ける…。当然、女性器も丸見えになった。
「グホホッ……結衣ちゃん、オマンコ可愛いよぉ……もっと、お尻を振ってみて…」
「こぉ……先生っ…フリフリぃ…」
結衣は、お尻を左右に振る。
(ゆ、結衣ちゃん……何てエロいんだ…も…もうチンポが、復活してきた…)
グニニニッ……
吾郎のペニスが、再び勃起した……。

「はぁッ……結衣ちゃん…ハァ……」
吾郎は、勃起したペニスを
結衣のお尻の谷間に擦り付ける…。
「あはっ…先生オチンポ、私に
擦り付けてる……やぁんっ…」
ズッ…ズッ…ズッ…ズッ……
（ハァッ…ハァッ…ハッ……
これだけでも、気持ち良い…ハァ……
でも、オマンコはもっと気持ち良いん
だろうな……ハァッ…）
「結衣ちゃん……そろそろセックス
しようねぇ…グヘヘッ……」
吾郎は、ペニスを
膣に押し当てた……。

グニニニッ…ズルルルッ…ヌプッ……
「あっ…アァッ…アンッ……
オチンチン、入ってきた…あぁッ…」
初めて膣内に侵入するペニスに
結衣は催眠状態ながら、驚きを
隠せない様である…。
（初めての挿入の所為か、流石に
狭いな…キツキツマンコだ……）
「はぁっ…はぁ…ハハハ……
結衣ちゃん、入っちゃったねぇ…
痛くない…？大丈夫……？」
「はっ…んっ…だ、大丈夫……はぁ…
はっ……アァッ……」
結衣は、吾郎にペニスを入れられ
興奮しながら固まってしまった。
「じゃあ、動かすからね……
結衣ちゃん…フフフッ…」

ヌプッ…ヌプッ…ヌブッ…ヌッ……
「あっ…んっ…あはッ…アッ……
やぁんッ…アンッ…ア…アハッ…」
結衣は初めての性交に、喘ぎ声をあげる…。
「あぁ…はぁっ…結衣…ちゃんの…マンコ……狭いけど…気持ち良い……あっ…はっ…はァッ……」
（あぁ…結衣ちゃん…マンコ良いわ……ヌルヌルで良い具合に締め付けてくる……はぁあ…）
ニュップ…ニュプッ…ニュブッ…
プッ…ニュチュッ…ヌブッ……
「あっ…ンッ…はっ…アハッ…あんッ…アッ…き、きもちいッ…あはンッ……」
結衣の膣は愛液で十分濡れており、吾郎のペニスがスムーズに出入りするのだった…。
ヌプッ…ヌプッ…
ヌチュッ…プッ…

「さぁ、こっちに来て結衣ちゃん……グヘヘヘッ…」
ズイッ……グッグッ……
吾郎は、結衣の身体を強引に引き寄せる…。
「あぁんッ……あっ…アッ…アァッ……!」
吾郎は結衣の両腕を掴んで、後ろから犯すのだった。

ニュプッ…ニュプッ……
ニュチッ…ニュチュ……
「あぁんッ…アァッ…アンッ…
アッ…アハッ…アァンッ…！」
吾郎の巨大ペニスは、結衣の
子宮の入り口まで
届いていた。
「はぁッ…ハァッ……結衣ちゃん、分かるよ……はぁ…
結衣ちゃんの奥まで届いてるの…ハハッ…このまま
子宮に直接出すからね……ハァッ…ハァッ…ハッ……」
ズチョッ…
ヌチョッ…ヌッ…

「ハァッ…ハァッ……
ハァンッ…アハッ…アハンッ
…アッ…イッ…イクッ……
オチンポッ…イッちゃうっ…アッ…」
ヌチュッ…ヌチュッ…ヌチュッ……
結衣は、催眠状態でイキそうになっていた…。
「はぁッ…ハァッ…アッ……俺もイキそうになってきた…ハァ…」
ヌブッ…ヌブッ…
ヌブブッ……！

「あぁッ…結衣ちゃんっ…
イク…イクぞっ…結衣っ…
あっ…アッ…アァッ……！」
ドビュッ…ビュルルッ…ビュクッ…
ビュッ…ビュルッ……！
「あぁッ…んっ…熱いっ…のが…出てるッ…アッ……
アハッ…アンッ…やぁッ…あぁッ…アハァッ……！」
ドビュッ……！
ビュルルルッ……！

「花野さん…花野結衣さんっ……はぁ…ハァッ…そろそろ起きて…はぁッ……」
「ハァッ…ハァッ…はっ……えっ…あっ……何これ…アァンッ……アッ…」
吾郎の呼びかけで、結衣は意識を取り戻す……。
「花野さんはねぇ……ハハッ……
催眠治療が効いて…ハァッ…
男が好きになったんですよ…それどころか、こうして俺とセックスまでしてる
……俺の事、好きでしょう…？……ハッ…ハァッ……」
「あっ…ンッ…嫌じゃ…ない……アンッ…先生…好きぃ…アァンッ……」

「ハァッ…ハァッ…花野さんは彼氏が欲しいって言ってたから……俺が彼氏になってあげますよ…ハァッ…良かったね、結衣っ……」
「アァッ…んっ…カレシ…嬉しい…先生が、私の彼氏っ……アァンッ…」
吾郎の催眠治療で、結衣は完全に吾郎の女にされてしまった…。
「じゃあ、結衣…これから毎日…ハァ……種付けセックスするからな……孕ませてやる…ハァッ…」
「はぁッ…せ、先生の子供っ…私、作るぅッ…アハッ…アァンッ……」
吾郎は、ピストンのスピードを早くした…。
ズプッ…ズプッ…ズプッ……

ジュポッジュポッジュポッジュポッ……！
吾郎のペニスが、結衣の子宮を貫く…。
「アァンッ…アハァッ……オチンポ、きもち良いィ…
やぁンッ…アッ…アハァ……」
（ね、私っ…男が平気になって
セックスまでしてるぅ…すごいぃ…
先生、好きぃ…あぁッ……）
「アァッ…ハァッ…結衣はカワイイなっ…また出すぞっ…アッ…アッ…ハァッ…」
吾郎のペニスの先から、今にも出そうと精液が漏れてきた…。
ズッ…ズッ…ズッ…ズッ……

「アァッ…結衣い…イク…イクぞぉ……アァアッ…！」
ドビュルルルッ…ビュルルッ…ビュッ…ブリュッ…ドピピッ…ピッ…！
「あハァッ…アッ…ハッ…あひぃッ…アンッ……しぇんしぇえの…
アァッ…出てりゅッ…アァン…良いィ……」
「シフフッ…じゃあ、もう一発くらいヤろうか…結衣……」
（アァンッ…男好きぃ……先生好きぃ……チンポ大好きぃ…
中出しSEXだぁい好きぃ…アハッ……）
この日から結衣は、吾郎の女になり肉便器になった…。そして毎日
中出しSEXを楽しんでいるという……。
ビュルルルッ…ブビュルッ……！

お買い上げありがとうございました。